

◆子育て相互支援活動のための活動スキルアップ講座2008◆

## 子育で相互支援活動のための 活動スキルアップ講座 2008

子育て相互支援に関心のある方、「機会があったらなにかやってみたい!」 という方、どうぞお気軽にご参加ください。

子育て中の方!子育て中だからこそできる発信と活動を応援します! 「子育てをささえる地域創り」をめざして、なにかやってみませんか?

#### 第1回 7月8日(火)10:30-12:30

#### 「子育て中だからこそ!やれる企画いろいろ~サロン作りや懇談会企画などワクワク事例~

スピーカー:みなと子育てネットWa. Wa. Wa運営委員メンバー

◆7月10日(木)10:30~12:30「港区地域こぞって子育て懇談会」企画会議をオブザーブできます! (メンバーとしての参画も、もちろん大歓迎です)

#### 第2回 9月12日(金)10:30-12:30

「いろいろな人たちにたすけてもらおう!~応援者へのフォローアップ入門~」

講師:妻鹿ふみ子氏(京都光華女子大学教授/特定非営利活動法人日本ボランティアコーディネーター協会代表理事)

#### 第3回 9月30日(火)10:30-12:30

「子育て情報を発信しよう~子育て情報誌編集メンバーから学ぶワザ~」

スピーカー:品川SKIP編集委員会メンバー

#### 第4回 2月27日(金)10:30-12:30

「ネットワークって、どんなつながり?~子育て相互支援と地域創りのネットワーク~」

ファシリテーター:加留部貴行氏(九州大学特任准教授/特定非営利活動法人日本ファシリテーション協会会長)

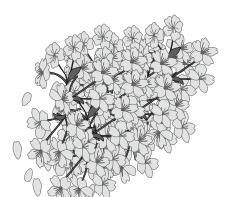
対象:子育て相互支援活動に関心のある方 定員:15名(各回のみの参加OKです) 保育サービス:講座申込時にご相談ください(ご要望に添いきれないこともございます。ご了承ください)。

会場:明治学院大学社会学部付属研究所(最寄駅:白金高輪駅・白金台駅・高輪台駅)

●申込先● 明治学院大学社会学部付属研究所 TEL03-5421-5204 · 5205 FAX03-5421-5205

(港区自金台 1-2-37) Eメール <u>issw@soc.meijigakuin.ac.jp</u>

主催:明治学院大学社会学部付属研究所 協力:港区立子ども家庭支援センター



## 2008 年度子育で相互支援活動のための活動スキルアップ講座まとめ 券 頭 言

#### 「つながり」の向こう側

この一年も、私たちは限りなく「出会い」を続けてきました。そして、お互いが知り合い、対話し、理解しあう中からコミュニティを創りあげていくことの大切さを知りました。

どの地域にも豊かな歴史とそこに息づく人々の営々としたくらしがあります。そのくらしの営みは時に「稗史」と呼ばれ、特別なことでもなく、ごくごく「あたりまえ」に存在するものなのです。しかし、その「あたりまえ」が外から来た人にとって「有り難い」ものに映り魅力あるものに感じられるとするならば、その人はきっとこう言うでしょう。「ここに暮らしてよかった。ありがとう」と。

かつて、村おこしやまちづくりの担い手たちは、自らのことを「生活改善グループ」と名乗っていました。そう、まずは自分たちの生活をよりよくすることが第一なのです。そして、そのより良い生活を一部で囲い込むのではなく、他の人に対して開放していくことで多くの人々は救われてきました。そのあっけらかんとした気さくで飾り気のない人々の言動の存在そのものが「つながり」という地域の宝となったのです。

コミュニティの本来の意味は「共に重荷を担い合う」ということ。はじめはたったひとりの「私」のつぶやきから始まったことも、つながっていくことによって「私たち」の声に変わり、その負担は少しずつ軽くなっていきます。それぞれのこどもたちや地域に対する思いが集結することによって心軽やかになり、こどもたちの小さな明るい活気が大きな深い恵みをこのまちにもたらすこととなるのです。

3年という期間をかけて私たちを取り巻く子育ての環境について徹底的に考え、自分が住むまちや自分自身のあり方に気づく「場」を共有したことは本当に意義あることでした。まずは、親をはじめとする大人がつながり成長することがまちやこどもたちの成長を促すチカラでもあります。そして、老若男女を問わず「元気」と「つながり」が復活していくことで、私たちの生活環境が徐々に改善、回復していくとするならば、私たちが挑むべき環境問題の対象は「人間関係の環境」なのかもしれません。

こどもたちを心から愛する多くの方々のご協力でここまで進めることができたことに心から感謝申し上げたいと思います。ここに関わったメンバーの関係性が「チーム」となりつつあることで何にでも立ち向かえそうな気がしてきたのは私だけでしょうか。

2009年春、桜満開の福岡にて

加留部貴行

(2008年度子育で相互支援活動のための活動スキルアップ講座第4回ファシリテーター)

#### 目次

#### 子育て相互支援活動のための活動スキルアップ講座 2008 まとめ

巻頭言(加留部貴行氏)	1
目次	2
2008 年度活動スキルアップ講座第1回	3
「子育て中だからこそ!やれる企画いろいろ〜サロン作りや懇談会企画などワクワク事例〜	١,
(2008年7月8日)	
2008 年度活動スキルアップ講座第 2 回	1 1
「いろいろな人たちにたすけてもらおう!〜応援者へのフォローアップ入門〜」	
(2008年9月12日)	
2008 年度活動スキルアップ講座第3回	1 8
「子育て情報を発信しよう!〜子育て情報編集メンバーから学ぶワザ〜」	
(2008年9月30日)	
2008 年度活動スキルアップ講座第 4 回	2 5
「ネットワークって、どんなつながり?〜子育て相互支援と地域創りのネットワーク〜」	
(2009 年 2 月 27 日 )	



明治学院大学社会学部付属研究所では、2008 年度「子育て相互支援活動のための活動スキルアップ講座」を開催しました。この講座は、2006 年度・2007 年度に開催した「活動サポート講座」・「子育て支援活動メンバーのための活動スキルアッ

プ講座」に引き続くものです (2006 年度 「子育て支援活動メンバーのための活動スキルアップ講座」 第1回~第4回は、港区立子ども家庭支援センターとの共催)。

当研究所が、子育て支援活動メンバーと出会い始めたのは、2004年度から2005年度にかけてです。「都心での子育て環境をよくしたい!」という活動者との出会いがきっかけとなり、港区内で活動するいくつもの子育てグループの皆さんと知り合いました。それぞれが、「いろいろな人との関わり合いの中で子どもを育てたい」と考え、出かけにくい孤立しがちな親子を心配し、親子で集まれる小さな広場や母親向け講座などの活動を、懸命にほぼ手弁当で運営していました(一部のグループは、港区社会福祉協議会の『子育てサロン』助成を受けています)。活動スキルアップ講座のテーマは、そうした子育てグループ活動者との対話の中から、選んだものです。

2008 年度の「子育て相互支援活動のための活動スキルアップ講座」は、機会があったら、これから何か活動してみたい~という方にも参加してもらえるようなテーマも盛りこみました。とくに、港区内のワクワク事例紹介を行った第1回は、区内の関心ある皆さんが参加され、活発な質疑応答が交わされました。第3回では、スピーカーは品川で活躍する子育で情報誌グループの皆さんでしたが、参加者は大きな刺激をうけたようでした。ほんの少しずつでよいのですが、講座へ参加されたことが、「子育て中だからこそできる活動や発信」をするための力になってくれたら、とてもうれしく思います。

講師・ファシリテーター・スピーカー等は、2008年度も、実践活動を通して築いたネットワークをフル活用し、それぞれの領域や地域でご活躍の皆さまに協力していただきました。この場を借りまして、ご協力にあらためて感謝いたします。講座に参加いただけなかった皆さんにも、そのエッセンスを届けたいと考え、まとめを作成しました。ご覧いただければ幸いです。

2009年3月吉日(明治学院大学社会学部付属研究所ソーシャルワーカー平野幸子)

2008年度活動スキルアップ講座 第1回

## 子育て中だからこそ!やれる企画いろいろ

#### ~サロン作りや懇談会企画などワクワク事例~

2008年7月8日(火)10:30~12:30

スピーカー:みなと子育てネットWa. Wa. Wa運営委員メンバー 廣田千秋(おおきなき)・伊佐見節子(きしゃポッポ)

中鉢康子(La. La. La.)・小西智美(Den of Delight)

## まずは、みなと子育てネットWa. Wa. Waの紹介・・・代表伊佐見さんより

港区内に、どんなサークルがあるの?ということがなかなか見えない。でも活動している人たちはたくさんいるよ~ということがわかり、「いっそ皆と手をつないで、ネットをつくってしまえ~」ということで、「みなと子育てネットWa. Wa. Wa」を立ち上げました。

きょうのスピーカーの方々のグループの他にもつながりグループがあります。

これからグループを立ち上げる方も、立ち上げたいな!という気持ちが強い今がチャンス。代表を決めてとりあえず作ってみる、というのもいいと思います。何もないところから立ち上げるよりも、家庭教育学級や区の企画での出会いを移行する形はやりやすいかもしれません。思いの強いうちに、名前を付けて代表さえ決めてしまえばできます。それからボチボチ固めてもいいのかなと思います。みなと子育てネットWa. Wa. Waの活動としては、今年も、港区立子ども家庭支援センターと明治学院大学社会学部付属研究所共催の「港区地域こぞって子育て懇談会」の企画を担当します。他に、芝地区ふれあい祭り



やみなと区民祭りに出展予定。いろいろなことを企画していきます。グループを作らなければ入れない、ではないので企画をやりたい~からだを動かしてみたい~とか何でもありです。お声をかけてください。みなと子育てネットWa. Waでは、子育てグループの情報や子育て・子育ちに関する情報交換のためのメーリングリストを持っています。どうぞお入りください!

#### ●スピーカーより、各グループの活動("ワクワク"事例)について紹介してもらいました。

## おおきなき スピーカー: 廣田千秋

設立時期:平成16年

**設立の経緯**:特定非営利活動法人ひさし総合教育研究所の渡辺陽子先生による講座「子育てネットすこやか 思春期さわやか家族」に参加後、先生のバックアップにより、参加者した人たちと自分たちなりの企画をや り始めた。子どもが 2 歳~3 歳の時。講座には託児があり、ひと時でも子どもと離れて集中できることは、 すごく嬉しかった。子どもの発達段階や心理学の話、リラックスできる内容もあった。講座でいろいろな人 たちと出会った。グループ名「おおきなき」は、「おおきなき」という絵本から。全部ひらがなにしたのは、 柔らかい気持ちで皆さんに与える、見返りをもらおうではなく与えることが全て、それで満足という意味。

**活動の目的**:講座企画中心 (年に1回、4回講座)。他に、皆さんがどういうことを考えているかも知りたいことから、月1度「はなすかい」開催。

活動場所:現在は、社会学部付属研究所プレイルーム。以前は公共施設を利用していた。

スタッ7:講座時手伝ってくれる人はいるが、スタッフはひとり。

会費:講座参加費1人1回500円。保育者への謝礼に充当。不足分は支援者によるフォローで賄っている。

活動の課題:「はなすかい」を充実させたいが、PR不足もあり、実質ひとりでやっていることもあり課題。

**今後の展望**:私の夢・目標は、お母さんたちの子育てのキャリアを活かしたい。子どもが小学校に入ると仕事に就かれる方が結構多いが、子育て経験を次の世代に教える、お母さんをお母さんが教えていく循環をつくり、教えることから報酬を得て仕事として成り立つといいなと思っているが、模索中。また、子育てカフェみたいな場で、料理の得意なお母さんの手作りクッキーを売り、そこで子育て中のお母さんたちの話を聴いてあげたい。

**活動していて楽しかったこと**:いろいろな人との出会いがあり、「とてもよかったよ」と言ってくれる方がいることが、お金ではない喜び。しかし、スタッフが減ったので報酬を考えなければいけないのかとも思う。

Qおおきなきへの質問: 講師は、どうやって探して くるのですか。

▲:心理学の先生方は、バックアップしてくれている渡辺先生」の紹介です。その他の方は、スタッフの中で、「誰か知っている?」と情報を聞いて集めています。





## Den of Delight スピーカー: 小西智美

**設立時期・設立の経緯**:2007年3月に区立幼稚園卒園前の親子お別れ会での保護者出し物で、お母さんたちでゴスペルを歌うため、先生を紹介してもらったのがきっかけ。歌ってみたらすごく気持ちがよくて、「このまま終わるのはもったいないね」「じゃあサークルを作ろうか」と私が言い出し、そのまま代表に。サークルとしての活動始動は2007年4月。

**活動の目的**:第1は、お母さんたちのストレス解消。大きな声を出して歌うのはすっきりするので、すっきりして新たな気持ちで育児や家事ができたらが一番。さらに自己表現や自己実現につながることも目的。

**活動の内容**:月 2、3 回、新橋児童館・みなとキッズサポートセンター・リーブラで講師のもとで練習。1 回 2 時間。平日の午前中、子どもたちが幼稚園や学校に行っている間に活動中。最近、地域イベントやお祭り等に徐々に参加。

**スタッフ**:代表・会計各1名(役員)、楽譜コピー係1名、練習日のメール連絡係1名、ブログ書き込みスタッフ1名、計5名。会員数は現在18名。入会ルートは、主にサークルのブログ・地域の情報誌・メンバーからの口コミ。

会費・活動資金: 入会金 1000 円。レッスン1回 500 円(講師謝礼)。2 年目から年会費 500 円。活動資金は、入会金・年会費、不足の場合は実費を皆で割る。

**活動の課題**:メンバーを増やすことの難しさ。人数が多いほうが、歌に厚みもでるので、メンバーは増えて欲しいが、増えれば増えただけ、連絡をどうするか等の難しさも出てくる。歌を披露する場を自分たちで探すのが結構大変。ネットや地域の情報誌等を見逃さないようにしている。

**今後の展望**:曲目を増やしたい。負担のない範囲でイベントやお祭り等で歌える場をもちたい。目標があると練習の張り合いが違う。

**活動していて楽しかったこと**:皆の歌声がひとつになった瞬間。滅多にないが(笑)。歌声がひとつになった瞬間とは、気持ちがひとつになっていないと歌声もひとつにならない。その滅多にない瞬間が、また来るかなということを楽しみに歌っている。

**Q**DenofDelight への質問:ステージに出るの が楽しい人と練習だけしたい 人がいるのでは? **A:**ステージへの参加は自由。でも出たいお母さんが多く、ソロは取り合い。ソロは、先生が決めますが多少ギクシャクします(笑)。私は最近はコーラスが楽しいと思うようなりました。

**Q**DenofDelight への質問:小さい子どもと一 緒に行うゴスペルは? **A**:考えています。現在未就園児がお母さんと来ていますが、 子どもの方が憶えが早いです。いつか親子でできたらいいなと 目標のひとつです。

**Q**DenofDelight への質問:メンバー18名の 意見をまとめるのはむずかし くないですか?

QDenofDelight への質問:お母さんが歌っている間子どもたちはどうしていますか?何人くらいきていますか? ★: 私たちは同じ立場で意見を言うサークルです。スタッフと参加者がいるグループと、2つパターンがあります。設立される前に検討した方がいいです。意見を言う人と言わない人といて、聞くことは大変ですが、ついてきてれくる人も多いのでそんなに心配ないです。

■:5人くらいです。保育者を確保できていないので、子どもたちは好きに走りまわっています。まだ歩けない子はお母さんが抱っこしながらのことも。「静かにしなさい」と一切言わず、先生も全然気にされずで、子どもが寄っていくと喜んでくれる先生です。でも保育協力者をさがしたいとは思っています。

**Q**DenofDelight への質問:自分で何かやりた い時に子どもをどうするかは ネックですが、考えているこ とがあったら教えてください

**A:**意見というほどではありませんが、歌うことは子どもも受け入れやすい環境なので一緒にいられますが、おおきなきの講座は、離れた方が効果的でしょう。どちらも魅力的なので、見極めが活動の効果をあげるために必要と思います。

#### La. La. スピーカー:中鉢康子

設立時期: 2005年

**設立の経緯**:港区の家庭教育学級に応募し受講。4回参加後皆で何かやろうかと思っていたところ、区の生涯 学習課担当者が後押しをしてくれた。自分たちは、皆でちょっと集まって公園に行って遊ぼうくらいの感覚だったが、その方の強い勧めにより団体登録申請した。その後港区社会福祉協議会の子育てサロンへの登録も勧められ、「じゃあせっかくだから、ついでだ、登録しちゃえ」と登録し、助成金をもらえ活動時の保険がある。 しかし、保険は未就学児対象のため、学童の子どもは保険の対象になっていない。

**活動の内容**:代表が料理上手なので、親子クッキングを年3回実施。普段家庭ではできないクリスマスの大きいチキンを焼いたり、夏休みはアイスクリーム・手打ちのうどんを作ったり。親子クッキングは参加者が多く25~30組。途中で飽きた子は、公園に連れて遊び、できたら皆でいただくようにしている。夏休みに、長野で一泊二日農作業体験も実施している。

港区の保健所による食育ネットワークに加盟し、子どもたちの食育について考えたり、イベントも行う。

**スタッフ**: 設立時は 5 人だったが現在 2 人。お料理のメニュー決め、食材の買出し、皆さんへのお知らせ等 2 人では大変なので手伝ってくれる方を募集中。

**会費や参加費**:料理教室は1回食材費用として1000円前後。調理室費用・コピー代等は、子育てサロンの助成金を当てているが、助成金が今年度までなので、今後は材料費プラスアルファの参加費を負担してもらうようになる。

**活動していて楽しかったこと**:活動をしたことで、他の幼稚園や小学校のお母さんと知り合いになれた。道を歩いていて、「あ、こんにちは」「あ、こんにちは」というやり取りが増えて楽しい。

QLa.La.La.への質問: 区への団体申請とはどのよう な内容ですか?家庭教育学級 への登録の要件は?

QLa.La.La.への質問:家庭教育学級に参加したばかり。メンバー11人と先生の勧めもありグループ化を考え中。まだ皆の連絡先を集約しているのみ。何かアドバイスを。

**A**:家庭教育学級は、生涯学習課に団体登録の書類を出しました。親の勉強のための講師謝礼が区から支払われ、区の施設を利用する際早めに予約が取れたり、使用料が半額になったり等のメリットがあります。要件には区内在住者数や目的の明記などがあります。子育てサロンは社会福祉協議会で助成金をもらうためです。年度末に、活動報告・会計報告を提出しま<u>す。</u>

**A**: まずリーダー、代表者を決めないと何をするにしても動けない。やりたいという人がでればいいが、無理やりでは続かないのでよく話し合って。代表になると自分の住所や電話番号を記入するのでプライバシーの問題もある。自宅に問い合わせ電話や役所からの郵便物が届くことになる。

## きしゃポッポ スピーカー: 伊佐見節子

**設立時期:**10年程前。区の企画のお教室があった際、「このまま別れてしまうのは寂しいね」と継続された。 きしゃポッポというネーミングは講座が新橋(ばる一ん)であったことから、新橋の汽車からとってきしゃ ポッポと名付けた。

活動の目的:子どもたちにもっと本を読んで欲しい。

**活動の内容:**本の読み聞かせ。「シュシューポッポー、ガチャン、皆さんこんにちは。きしゃポッポの伊佐見です。今日は皆さんに、もっと本に触れて欲しい、もっとたくさん本を読んで欲しいなという思いを乗せて、本を持ってきました。皆さん、よく聞いてくださいね」といって始める。

私は5年くらい前高輪幼稚園にきしゃポッポ募集という掲示があり、「あ、そうだ私もボチボチ4人子育てしているので、何か活かせるかな」と思ったのと、やはり子どもが好き・絵本が好きで入った。いきなり「読んで」と言われてのスタートだった。

活動場所:港区内の幼稚園、保育園、児童館、小学校

**活動メンバー**: 15 名ほど。働いている方もいるので役割分担し、土日は働いている方に主体的に活動してもらう形をとっている。

**スタッフ**:代表・会計・メーリングリスト担当・広報活動担当。コアメンバーは、お孫さんのいる方もいて年齢層の幅が広い。人の入れ替えはない。

**会費:**年会費 2500 円

今後の展望:演目を増やしていきたい。

**活動していて楽しかったこと**:絵本を読んだ時に子ども達の心の中に「あ、届いたぞ」と思える瞬間、これが快感。受けるかなと思ったものが受けなかったり、意外なものが受けたり、表情を見ているのがすごく楽しい。笑顔は勿論だが、笑顔でなくても「あ、何か考えているな」というのが伝わってくる、読み手と聞き手が盛り上がって一体になった快感が忘れられず、楽しい。

**Q**きしゃポッポへの質問:本代 や交通費はどうしているので しょう?

Qきしゃポッポへの質問: 育児 期間に活動する中で負担感は 変わりましたか? ▲:ボランティア活動が基本なので、本代/交通費は自分持ちです。助成金ももらっていないしスポンサーもいません。謝礼をいただく活動が時折ありますが、会の会計に入ります。本は図書館で借りることもあります。好きな作家の絵本を集めるのは楽しみです。



**A**: 私の場合は活動開始時は子どもが小学生だったので預ける 心配等はありませんでした。現在のグループは子育ての先輩方 が多く広い心で受け止めてくれ、教えてもらうことも多くほっ とできます。

#### ●参加者が運営するグループの紹介もしてもらいました!

#### ちびっ子ナイト養成倶楽部 スピーカー: 佐々木洋子

**設立の経緯**:集まって遊ぶお友だちで新しく知り合った方が、「何かやりたい」という。仕事も辞めて子育てに専念して子どもとの時間を大事にしているのだから「子どもがいながらできること」をやりたい。たまたま男の子のママが多く、戦いごっことか好きだけど母親が毎日相手をしていると疲れてしまう。でも「皆でやれば、楽しくできる」ということで「ちびっ子ナイト養成倶楽部」(子育てサロン)を作った。

**活動内容**: どうせ育てるなら、ナイト=紳士に、レディ=淑女にというコンセプト。むずかしく考えずに「かっこよさそう」ということで会の名前を決めた。いろいろな企画が出るが、できるものから順番にやっている。現在は、安全に戦いごっこをやってみようと子どものチャンバラごっこと、家ではなかなかやらせてあげられない粘土やクレヨンを思いっきり使わせてあげようとアトリエイベントを行っている。また、ママ向けに産後の体型が気になっても子どもがいるとジムなどに行くのは諦めがちなので、講師によるヨガ・ボクササイズ、DVD を使ってのエクササイズ。

**活動の課題:**活動をしてみて問題になったのが資金面。金銭的なものを求めはしないが、活動にはお金が必要。 資金面で自立しないと会がもたないと考え、参加費等を細かく取り決めた。スタッフは金銭的負担が大きく なると嫌になるので、報酬はないがかかった実費は会から出している。集客の面も大問題。

サービス提供ではなく場の提供をする会と考えている。会として、その芯の部分をしっかり持てばトラブルへの対処方法も考えていけるだろう。お教室等のサービス提供ではなく、子育て環境を自分たちで楽しくしようという方のために私たちは場を作っているということに共感してください、と呼びかけて人集めをしている。でも、参加者に伝えるのもスタッフ同士で考え方を共有するのも難しい。子どもが小さいと、話し合っているうちに遮られて何を話しているかわからなくなってしまうことも。学生の応援はすごく助かっている。

**今後の展望:**子育て期間は仕事も何もがまんではなく、子育てをステップアップにつながるよう自分の中に形づくりたい。子育てのスキルは他の場面でも使えると思うので、形にできるように支えていきたい。







#### ●その他の参加者からもグループとの関わりについて、いろいろ話がありました。

赤ちゃんマッサージやリズム体操のグループに参加していましたが、子どもの年齢が上がるとともに参加者が少なくなり、集まらなくなってしまいました、、、。 講座

講座での出会いから、せっかく仲良くなったので 続けようとなり、メーリングリストを活用して友 だちの友だちも広がりました。子どもが幼稚園に なると卒業かな、とも思います。次の企画を考え ればよいのですがちょっと岐路に立っている感 じかしら?

ミニコミ発行に取材面だけ関わっていました。代表の方は後 任探しに苦労されていました。資金面の心配もされていまし た。結局候補者が引き受けられなくなり、活動が終わってし まいました。グループ活動は、ひとりに負担が大きいと継続 するのがむすかしいですね。ある程度の役割分担が必要だと 思います。

## これまでの報告等において、 グループ活動の課題 がいくつか挙がりました。

- ・ひとりの負担にならない役割分担等、継続できる運営の工夫。
- 参加者が集まらない。PR不足か。
- ・ メンバーを増やすことがむずかしい。しかし、増えた際の連絡調整に課題も。
- 活動資金調達の課題。
- (\*港区社会福祉協議会の子育でサロンは3年間のみ助成)
- 子育でサロン登録をする場合、学童は保険をかけてもらえない。
- ・子どもの年齢と共に親の関心も変わるので、同じグループの活動は続けにくい。

## いろいろ課題はあるけれど、 続けているのはなんでだろう??? そのほかグループ運営のこといろいろ スピーカーより・・・

子どもが小学3年生になり、小さいお子さんはかわいいとは思うが、興味の対象は小学生に。でも、活動してきたことを続けていきたい気持ちがある。自分が講座に出て、本当にありがたかったという気持ちを他の方たちにも思ってほしいな、と思って続けている。だが、興味は違う方向に行ってもいるので、どうしていくか少し悩んでいます。でも、自分が子育てしているときに、手助けしてくれた人たちに「ありがたい」という思いをもったが、それで終わりにしないで、次の人たちに返せるようにしたい、それが続ける理由かと思う。

わが子の成長に合わせたサークルとの接し方もあるでしょうが、わが子をちょっとおいて、第 三者的に関わる活動の仕方もある。活動のパターンはいろいろあると思います。活動を立ち上 げた時の気持ちや共通認識が段々ずれてきた時にどうしていくのかな?どうしてもひとりひと りそれぞれなので、スタッフ内でも共通認識といってもくずれてくる。私は半年くらいやっ て、このコンセプトだけはずらさずにいこうーを決めました。自分も一緒にやっている人も変 わっていくので、最初の根幹だけを決めておくというのが会として大事かと思います。軌道修 正はできます。世代交代も根幹がしっかりしていれば、会として継続できると思います。

理想的なのは、みながいろいろな意見を言って作り上げていくことですが、中には何も言わない人もいる。自分がああしよう~こうしよう~と考え、どうしたらいいだろうと思うので意見をほしいが、話し合いがなかなかうまく回らない。何かやってくれれば参加するという人、指示してくれれば手伝うという人もいる。うまく役割分担できればいいと思っていますが、、、。

結局、時間もなく、「じゃあ、もうやっちゃえ~」となると、苦しくなってきます。自分のためもあるけれど、子どものためにやっていたはずが、子どもをほったらかしでやっている、とか矛盾が、、、。きれいごとだけでは進まない、、、という面もあります。

私は、活動を始めた時は既に子どもが大きかったので、子どもの成長に合わせて興味が変わる ということはなかったです。

子育では、子育で中だけに限るという感覚が私にはなく、幅の広い捉え方をしています。 子育では、いろいろなことに関係する。教育もそうだし、全部関係するくらい奥が深い。港区 地域こぞって子育で懇談会の対象も、小さいお子さんを育てている方だけではなく、「子育で にやさしい街は皆にやさしい街だよ」といいたいです。グループでの活動の時は対象があるで しょうが、みなと子育でネットWa. Wa. Waとしては、広い目で見て考えていきたいと思 います。 2008年度活動スキルアップ講座 第2回

## いろいろな人たちにたすけてもらおう!

~「支援してくれるひと」はどこにいるのか?

ずうっとかかわってもらえるのか?~

2008年9月12日(金)10:30~12:30

講師:日本ボランティアコーディネーター協会代表理事/京都光華女子大学教授 妻鹿ふみ子

#### 講座のはじめに・・・

参加者自己紹介&講師からの質問 Q「今暇があったら何がしたい?」 A参加者からの回答→ 休みたい、旅行、片付け (ちなみに講師は大論文執筆だそうです!)

## まず、たすけてもらうためには、出会わないといけない

契約やお金を介在せず、支援者・後援者を募るとは、通常の「働く」とは違う関係を作らなければならない。では、いったい人はどんな時にボランティアとして、お金目的ではなく手伝ったり支援したりするのか。 (→このメカニズムの検討は、きょうの目的のひとつ) 人は暇なときに何をしたいか(はじめの講師からの質問)?これは、やはり「私のため」にしたい。暇だったら、普通、人は社会貢献しようとは思わない。まず、自分が休まないと、片付けないと、リセットしないと次につながらないから。それは、「とんでもない」ではなく、自分のために何かしたいというのが人間普通。僅かな時間でいいから、子育て支援に目を向けてもらうためには、それなりに戦略を作る必要がある。簡単には活動に時間を割いてくれる人はいないと最初に知っておく必要がある。

## どうやって出会う?どうやって探す?どうやって見つける?

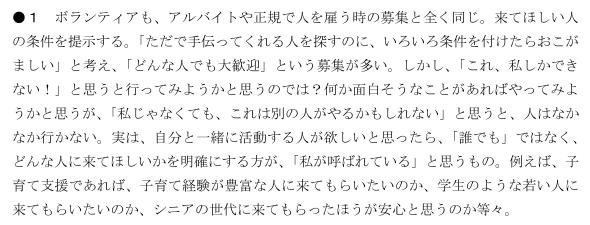
チャンスがあったらやってもいいかなと思っている人は多い。その気があるけど実際はいろいろな理由があって忙しくてできない、「いつかきっと」と思っている人もいる。7割くらいの人は社会貢献したいと思っているが、実際に一度やったことのある人は3割程度。継続的に活動している人は2割程度。



#### <難問その1>

## どうやって出会う?どうやって探す?どうやって見つける? -リクルート入門-

- ●1 まず、明確にしましょう!どんな人に来てほしいのか?
- ●2 「支援者」「ボランティア」探しに王道はない!
- ●3 ボランティア活動や市民活動の動機NO.1は今も昔も東も西も「誘われたから···」
- ●4 始める理由は「世のため人のため」よりは「自分のため」
  - \*続けているうちに、問題イシキが芽生える!
- 5 最初からできあがった便利な「支援者」はいない
- ●6 あなたの知っている人に、個別に、"声"をかける!
  - \*よほどの信頼関係が築けている場合以外はメールよりは「声」
- ●7 みんな忙しい世の中。でも忙しい人ほど時間をつくるので臆せず声をかける。
- ●8 「知っている人」は自動的には増えない。
  - \*こまめなリスト作りが「知人→支援者」を増やす秘訣
- ●9 信頼できる中間支援組織を利用する、という奥の手!
  - \*新しい出会いの可能性
- 10 出会えたら…



ターゲットが明確な方が、応募側にはわかりやすい。実はこれは、マーケティング。自分たちがほしい層は、いったいどんな人たちなのか。暇な人なんて書いたら誰も来ません。 どんな人に来てほしいのかをまず明確にすることが大前提。

- ●2 「こうやったら絶対に見つかりますよ」という魔法のような方法はない。地道なことの積み重ねが、自分たちのネットワークを増やすことにつながる。
- ●3 最初に活動を始めたきっかけは、人から「誘われたから」。これはボランティアをし

ている人がとても多いアメリカでも、日本でも、今も昔も第一の理由。

- ●4 「世の中を変えたい」「社会の役にたちたい」という人が、むしろ自分の生きがいや自己実現、学びたいから等自分のためにやってみたいになることも。でも不思議に、やっていくうちに問題意識が芽生え、活動を通していろいろなことがわかり、気が付くこともある。自分のために何かしたいと思う人に、どうやったら、「これやったら面白そうだな」と思ってもらえるものを提供できるかが大事。
- ●5 世の中のどこかにできあがったボランティア、支援者がいるような気がするが、実は 2 割しかいない。今は忙しい人や今は特にやろうと思ってない人を、その気にさせることがとても大事。
- ●6 まずは知っている人に声をかける。特別な方法ではない。趣味やスポーツの友人・ 学生時代の友人・近所の知り合い・仕事仲間とか、知っている人にとにかく「声をかけて みましょう」が、実はリクルートの第一歩。今は何でもメールだが、人を誘う時は、電話 で声をかけられるほうが断りにくい。
- ●7 この人忙しそうだからまず無理かな、と思わずに、忙しい人ほど実は時間を作ってくれる。案外暇な人は、時間を作り出すのが下手なので断られたりするが、忙しい人は忙しいけれど1か月に1回だったら時間を作れることも。忙しい人に声をかけることは重要ポイント。
- ●8 知っている人は自動的には増えない。こまめなリスト作りが秘訣。リクルートの観点から考えるととても大事。リスト作成は手間がかかるが意識して行うことで、自分の活動の仲間を増やしていくことになる。ちょっとずつ行うことで、ただの知り合いを支援者にすることになる。
- ●9 中間支援組織とは、地域のボランティアセンター・市民活動センターや、明治学院大学の社会学部付属研究所もそう。明治学院大学にはボランティアセンターもある。利用する時は必ず冒頭の「どんな人に来てほしいのか」を明確にして支援者を募集する。とりあえずなんとなく募集広告を出してもうまくいかない。
- **10** 実際に出会えたら、今度は丁寧に対応することによって本当の支援者にする作業が必要になる。

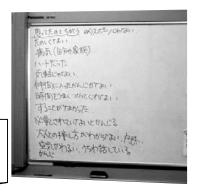




#### みんなで考えました・・・

Q「どうして活動をやめてしまうの?」

A参加者からの回答→思ってたのと違ってた、楽しくない、病気になってしまう、ハードだった、気軽じゃない、いつまでも仲間になっている実感がない、時間の使い方が散漫になっている。



お金をもらわずにお手伝いをする、という心のメカニズムは、アルバイト、つまり仕事として割り切ってやる契約関係や、お金によらない関係でも友だち関係とは違う。支援者・後援者・ボランティアという無償でつながる関係は、少し難しいところがあって、受け入れる側が上手にわかって工夫をちゃんとしないと難しい。

#### <難問その2-1>

## ずうっとかかわってもらうために、知っておきたいこと -フォローアップ入門-

- 1. ベースとしての5つのポイント
- ① 受け入れの方針の確立(なぜ支援を求めるのか?)
- ② コンセンサスづくり
- ③ 受け入れのルールづくり
- ④ やってて楽しい活動内容(その活動、あなた、したいですか?)
- ⑤ やるべきことを明確にした上での支援者探し(リクルート)

やはり、「何をやってもらいたいのか」があって支援者を募る、ということがないと、そもそもダメ。何となく「このままではいけない」という危機感で支援者を増やしたいと思ったが、それで来てくれた人にやることがないと、「私の居場所がないわね」と思ってしまう。活動内容を明確にして新しい人に来てもらいましょう! このベースとしての5つのポイントを確認しておきましょう!

#### <難問その2-2>

#### ずうっとかかわってもらうために、知っておきたいこと

#### -フォローアップ入門-

- 2. 続けたくなる環境整備
  - ① 双方向のコミュニケーションツールの整備
  - 支援者からのフィードバックを受けとめらるか?
  - ② 役割の明確化
  - ③ 「居心地のよさ」演出
  - ・受け入れられていると感じられるか?
  - 「仲間うち」だけで楽しんでいないか?
  - ・初日の対応がポイント
  - 終わりよければすべてよし?

、環境整備をしましょう=居心地 のいい活動の場所づくり

辞める人は、「私もう来ません」とは絶対言わないもの。なので「終わりよければすべてよし」と書いているが、辞める人の理由はわからないことも。だからこそ、来てくれた人が絶対次も来てくれるように、帰るときの対応はいい対応をしないといけない。

<難問その2-3>

## ずうっとかかわってもらうために、知っておきたいこと -フォローアップ入門-

3. 適切なスーパービジョンのしくみづくり(知っておくと役立つ!)

直訳すると「監督助言」することになるが、ボランティア活動の場合は、ボランティアコーディネーター(受け入れ担当者)が、スーパーバイザーとなり、ボランティアが活動を続けていけるように、さまざまな援助をすること

- ① 評価
  - (1) 量的な評価と質的な評価どれだけの時間、かかわってもらっているか?効果があったかどうか?
- (2) 承認と賞賛 (Recognition)
- (3) 建設的な批判 「もっと〇〇してもらえると嬉しい…」
- ② 教育(研修) 成長の機会を提供する
- ③ 管理(マネジメント)
- (1) 適切な人材マネジメント 動機(モチベーション)の理解、適切な報酬の提供など
- (2) 活動の進捗管理としてのマネジメント
- ④ 支援 (コーチング)

活動をしたためにボランティアが味わっている「つらい思い」や、活動を続けていくことの「しんどさ」を受けとめ、見守り、時には指導やアドバイスを行う。

Recognition=簡単に言うと「ほめること・みとめること」 「みとめる」とは、「あなたも私たちの仲間だよ」とわかるようにしていくこと。 建設的な批判=「もうちょっと、こうしてもらえると嬉しいです」という言い方

<難問その2-4>

## ずうっとかかわってもらうために、知っておきたいこと -フォローアップ入門-

- 4. 人はなぜ「タダ」で働く(活動する)のか、考えてみる!
  - ① ライフサイクルとボランティア活動の関係
  - ② モチベーション (動機づけ) 理論
  - ③ 金銭的報酬と非金銭的報酬

**モチベーション管理**-継続支援のために知っておくべきこと

~ヒトはなぜ、働く(活動する)ことを続けるのか?~

◆ 外部要因 有給で働く場合は昇給と昇進 無給のボランティアの場合は?活動しやすい環境 (いごこちがよい、人間関係がよい、私の居場所がある)

▶ 内部要因

活動そのものから得られるもの 達成感 (活動そのものの目標と課せられた責任感) 満足(少し高めの目標をクリアするとよりいっそう高くなる) 生きがい、自己実現など

#### 働くことのモチベーション

~ヒトはなぜ働くのか?~

(ワークモチベーションとは?)

- · 経済的動機 · 社会的動機 · 自己実現動機
- ・外発的側面と内発的側面-生活のため? 生きがいのため?
- アメとムチの論理

#### ボランティアが活動する時の

#### 複雑な心理要因

理解 (学びたい)	価値要因	キャリア
社会的要因	防衛要因	尊敬

Clary, Snyder and Ridge の研究による(1992)

#### 活動支援のための報酬理解① ~そもそも報酬とは何か?~

- ・内的(内発的)報酬
- ・仕事 (活動) 自体に

本来的に含まれるもの 自由裁量、意思決定への参加 自己成長の機会

- 外的(外発的)報酬 (外から与えられるもの)
- ① 非金銭的報酬 上司からの賞賛、快適な仕事環境など
- ② 金銭的報酬

直接的報酬(=現金):給料、賃金、

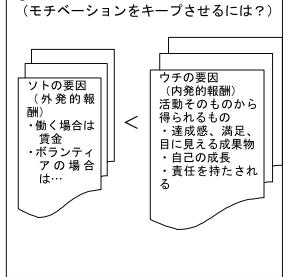
ボーナス

間接的報酬 (=給付): 健康保険

有給休暇等

## 活動支援のための報酬理解②

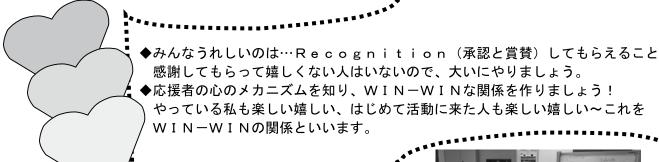
どんな要因があれば活動が続けやすくな るか



<難問その2-5>

## ずうっとかかわってもらうために、知っておきたいこと -フォローアップ入門-

- 5. 傾向と対策
- 最近の若いヒトたち 生の声よりメールが好き。なんでもメールで聞いてくる。 ワンクリックで活動を簡単に始め、簡単にやめる。 勉強よりボランティアより「バイト」が大事 社会貢献のイシキはもっている!
- シニアの人たち 「価値割」はなかなか難しい お金のかからない活動がよい 案外みんな忙しい





#### ●妻鹿ふみ子さんプロフィール

大学では社会福祉援助技術と地域福祉論を教えつつ、現在大学院でボランティア活動や市民活動の公共性や価値について研究をしています。研究の原点は、ボランティアコーディネーターとして働いたことに加え、自分自身が学生時代のボランティア活動において、最良のボランティアマネジメント(正確にいえばマネジメントしてくれたコーディネーター)に出会えたことにあります(ついでに伴侶にも出会いました!)。自分自身の人生において大きな意味を持つことになったボランティア活動に出会えたこと、それを続けられることは私にとって大きな幸せでした。ボランティアにその体験を提供できるコーディネーターが増えることを願って全国各地でコーディネーター研修のお手伝いをしているのかもしれません。

2008年度活動スキルアップ講座 第3回

## 子育て情報を発信しよう!

~子育て情報誌編集メンバーから学ぶワザ~

2008年9月30日(火)10:30~12:30

スピーカー: 品川SKIP編集委員会 小河原由美子・岸弥生・桜井 桃子・清水真理子・武藤紀子・吉仲理恵 特定非営利活動法人ふれあいの家ーおばちゃんち 幾島博子

#### 講座のはじめに・・・

ケーブルテレビ品川「商店街大好き」を観ました。SKIPが紹介されています!



#### SKIPはどうして始まったの?

**きっかけ** ふれあいの家一おばちゃんち(以下、おばちゃんち)は、品川でいろいろな子育て支援・異世代交流をしている。4年前事務局でホームページを作りたいという話があり、また子育てガイドを自分たちで作りたいが行政に相談しても実現の道が探れなかった~という声が届いた。ホームページや情報誌を作るための講座内容で助成金を申請したら通ったので、その講座を行った。その後、「実家」のおばちゃんちの親の思惑とは別に、子どもは自立してわが道を歩み、「てとてとねっと」と「SKIP」となった。困ったら時々帰ってくるけれども、あとは自分たちで思ったようにしっかりやってねと、おばちゃんちでは見守り今日に至っている。

**その後の経緯** 上記講座は、品川の子育て情報誌を作ろうという 5 回講座で、参加者は自動的に編集委員になった。お母さんたちがお母さんたちで作ろうとできあがったのが 0 号。0 号メンバーは、品川区の非常勤職員や子どもはいないが子どものことに関わりたい方等幅広い人たちだった。元になるものも何もなかった。メンバーが知りたいことを調べようを大前提にして、気軽な気持ちで作り始めた。個人情報保護法がスタートし、個人名は出さない・連絡先も活動場所に聞いてもらう形一等々、思ったよりは手間隙かかった。だが、その後情報誌以外にマップも作成した。そのマップのサイト版が、厚生労働省のマイタウンマップコンクールで表彰を受けた。

2007 年 3 月品川子育てメッセ(全部ママたちによる、商店街や区役所などを巻き込んで街で子育てしていきたいね~というイベント)でSKIPもブースをもち販売した。この頃、マップを配るなど制作以外の活動も広がっていった。全号(0~3号)の代表は、毎回違う人。代替わりがうまくいっていることも、「うまくいってるな」と感じている。

# Steps P

おやこであそぶ、しながわ子育てガイド

「おやこであそぶ、しながわ子育てガイド『SKIP』」は、2005年の創刊以来、しながわでの子育てを支えたい、スグ使える!親しみのある情報の提供を目指してきました。現役未就学児ママを中心とするメンバーの生の声と体験を集約した冊子等を、年1回のペースで発行しています。

2005年の0号、2006年の1号、2007年のコソダテ系自主サークルMAPにつづく第4弾、2008年2号をただいま制作中です。

次号は、小児科・産科などをはじめとする子育てをとりまく医療についてのママたちのレアな声や、いま注目されはじめた産前産後のセルフケア、大評判のお散歩マップ、ご要望の多かった幼稚園・保育園についての記事などなど、内容盛り沢山です!

冊子「SKIP」は「てとてとねっと」のサイトからの通信 販売をはじめ、てとてとねっとHPに記載されている 各取り扱い店にて、1冊200円で好評販売中です。(売

上はすべて、次号発行の資金となります。)既発行冊子の在庫残が少ないため、ご希望の方はお早めにご入手ください。





vol.2を ただいま制作中! 来春発行予定。

A5版40ページ 一部カラー 定価200円(税込)

vol.2は、こんな内容です。

- ・子育てチャート ・品川の小児医療
- 復活!昔ながらのバッテンおんぶ紐!
- •産後のセルフケア ・しながわマップ
- •子育て支援センターとは
- •戸越銀座おさんぽマップ
- ・東海道品川宿をバギーで歩こう
- ・幼稚園・保育園選び ・SKIP活用法
- ・子どもと一緒に気軽に旅にでよう
- でんしゃだいすき「今日も発車オーライ!」

ご購入は・・・
SKIPの姉妹サイト「てとてとねっと」へ
http://www.tetoteto.net/

だれしも子育てを最初からTOPギアではじめた人なんていません(苦笑) ゆる〜く、自分たちの興味で、できることをできる範囲で、できるときにと、まず一歩踏み出して、助走をつけて休みながらも走ったり歩いたり、常にマイペースを模索しつづけている気がします。まだ見ぬSKIPの向こうのあなたに、やがて出会う日を編集部員一同楽しみにしています

SKIPホームページ http://www.tetoteto.net/archives/cat\_skip.html メールアドレス skip@tetoteto.net

#### 品川SKIP編集委員会プロフィール・

構成メンバー・読者:主に未就学児をもつ両親

結成の流れ:2004年9月にNPO法人「ふれあいの家一おばちゃんち」主催の『パパ&ママ視点の子育てガイドブックをいっしょに作りませんか』講座にてSKIP0号を作成。その後、有志とそのつど仲間を迎えて現在に至る。

協力者:SKIPを制作・販売するにあたり、場所や情報などの支援・応援を区内児童センター・商店街連合会・観光協会等からいただいております。

また、委託販売・告知協力を区内親子サロンや商店・NPO・自主サークル・ママ友達などからいただいています。 保育サポーター派遣・常時固定連絡先などNPO法人「ふれあいの家一おばちゃんち」の全面バックアップを いただき、『しながわのママたちが、しながわのママたちのために自由に生の情報発信できる』冊子作りの環 境を得ています。

思い:冊子としてのSKIP本体は作ってくれる人を必要としていますが、実はそのSKIPの作成に係わりながら、メンバー自身にとってSKIPの存在がなくてはならないものになっていっています。自分が子育てに悩み、迷った経験が、SKIPの作成を通じて昇華され、新たな活路をみいだしていく様が、冊子に込められた情報以上に対面販売を通して読者に伝わる効用が大きいようです。

<冊子に収めきれない情報は姉妹サイト『てとてとねっと』http://www.tetoteto.netで!>

SKIPと共に2004年秋に誕生したしながわこそだてポータルサイト「てとてとねっと」。同じNPO法人「おばちゃんち」を母体としたSKIPとは姉妹にあたる現役ママたちがい運用するサイトです。SKIPと兼務する部員もおり、SKIPに載せきれない情報や、ネットという利点を生かした双方向型の情報をネットを通じてリアルタイムで提供しています。

## 品川SKIP編集委員会「しながわ子育てガイドSKIP」制作のながれ

- \* メンバー募集…「まちで探そう子育てのタネ (ネタ)」講座にて、"品川の今" のレクチャーを受ける。
- \* 発行物作成の勉強会…子育て雑誌の元編集長の方から「紙媒体での発行物作成時の心がけと注意点」・

## 編集会議I~企画から構成案まで~

- ① 各メンバーが、取り上げてみたいこと(テーマ)をフランクに挙げる。
- ② それぞれの話題を検討する。
- ③ 台割を作成。
- ④ 全体の記事配分が良いかどうか、話し合う。
- ⑤ 各メンバー、記事制作着手へ。(取材のアポ取りなど…) \*名刺があると良い
- \*編集会議や親睦会議を通じてメンバー同士のコミュニケーションをとることは重要!、

## 編集会議Ⅱ~記事制作から締切まで~

- ① 各メンバーの原稿を、メーリングリストでアップ。
- ② アップされた原稿に関して編集会議 及び、メーリングリスト上で意見を述べ合う。
- ③ 全体の原稿が出そろったら、レイアウトなども考慮しながら、意見を述べ合う。
- ④ かなり率直な意見を述べ合う中、各自、締め切りを意識しつつ、いよいよ締め切りとなると、子どもをねかしつけ、遅くまで原稿に向かう。

## 編集会議Ⅲ~校正からイラスト・最終レイアウト~

- ① 校正 \*相互校正の他、できれば校正のみに関わる方。読者視点でのわかりやすさも 含めてで見て貰えると良い。
- ② イラスト(イラスト担当者が絵柄を制作し、各メンバーが、記事にあったイラストを選択。もしくは、担当者へ、希望イラストをオーダー。)
- **↓**③ 最終レイアウトチェック。

## 編集会議Ⅳ~入稿から販売へ~

- ① いよいよ、印刷! (vol.2はデータ入稿です!)
- ② できあがり!!
- ③ 販売会議(今回は大手書店に置いてほしい…・イベントなどへの参加…ママたちのいる 現場へ…)
- ④ 販売促進活動開始
  - ・ 児童センター他 (親子クラブ・ワークショップ・ベビーマッサージ・<u></u> 産後ケアの講座時など・・・。)
  - ・ 書店への新規常設(ゲートシティ大崎店・シンクパーク店・有隣堂アトレ大井町店)
  - ・ 区内の商店街等のイベントへ参加(商業祭・夏祭り・フリマなど)
  - ・ 各ご協力店(SKIPに親交の深いお店への販売依頼)
  - 通販(姉妹関係のしながわ子育てポータルサイト「てとてとねっと」)

メンバー募集のための講座は、品川区の若葉マーク講習を活用しました。お母さんになりたての方対象の講座を行うと、講師料を助成してくれる制度です。講座参加者は、10人くらい。口コミで知った方が多い。

「紙媒体での発行物の心がけと注意点」 出すことの重要性(発行物は紙で残ります!)

作る側の気持ちをどうのせていくか?

編集会議の時、必要に応じ(内容によって)、おばちゃんちの出張保育を利用したり、お互いに子どもを見合ったりします。 子どもが、はじめ託児になれなくて大変だったこともあります。

編集会議は、たいてい児童センターの一部屋を借りて行います。 週1回程度実施

#### 取材の苦労!

- ①「この人たちはどういう活動をしているのか」ズバッときかれる。(→すでに発行した号を持参して説明する)
- ②子ども連れでの取材

メンバー同士のコミュニケーション重要! のちのちスムーズに進めるために大事です。

子どもをねかしつけるために・・・ 昼間、がんばって子どもを遊ばせます!

校正 気をつけていること・・・

- 誤字脱字
- ② 名称の確認 正式名称や正式表記を載せること。
- ③ SKIPとしての決まりごと (例:「こども」の表記など)
- ④ 初めて読む人に内容がきちんと伝えわるか、表現に問題はないか。
- ⑤ 作業には、国語辞典・パソコン・赤ボールペンが必須

1 部 200 円で販売。たまったお金で次の 号を作るという活動。できるだけ多くの 方に読んでほしいが、的外れなところに 売ってもしょうがない。

全制作過程は、約半年くらいです。

#### Q取材や編集の秘訣?

「みんなが知りたいことをやろうね」が、ポイント。最初に何を知りたいかを出す。どんどん 出し合った中で、みなが「あっ!それ私も知りたい」ということが、コミュニケーションでき ていると絞られる。さらに、買った人が 200 円出した甲斐があったなあ~というものにしよう と検討し、最終的に誰がこれを書くかを決定する。こういうことを知りたかったらここに行け ば?と言ってくれる人が得られると、うまくいく。

#### Q長続きのコツ?

みなゆったりした感じでやっていて、ガーとキツキツでやる人がいない。イベントがあると、「私も行く」という人が多く、行ってみてそこで肌で何でも触れる。すると、これをみなに伝えたいなということが出てくる。出かけることで得るものが増え、興味も広がり、子どもと人との出会いがあるとそれが嬉しくなる。こういう広がりがあることで続いている。

おばちゃんちという、役所とは別の何でも受け入れてくれるNPOの存在が、活動を続けていく上で、広がりやつながりを持てて強み。仲間探しも、おばちゃんちのイベント時に、興味ありそうな人に声をかけて少しずつ増やしていったり、おばちゃんちスタッフも声がけしてつないでくれたりする。子どもが幼稚園に入ると幼稚園の中の関係だけに満足してしまうので、1 才くらいのお母さんたちに会える場に出かけるなどの工夫を繰り返している。制作としては、いつでも0 号に戻ればいいと思うようにしている。つまり、手書きのページがあってもいい。その時集まったメンバーのできる方法を探りながらやる形に自然となった。

#### Qトラブル回避のポイント?

最大のトラブルは誤植。本にして人に見せる以上絶対に出したくはないが出てしまう。トラブルは回避できないので乗り越えるものと考える。回避するためには校正をがんばることになる。目に見えにくいが、メンバー間の「がんばり過ぎ」というトラブルもある。人間関係を築く前に「本を出さなきゃ」と進めたことで、精神的に負担になり、それを仲間に伝えられないというトラブルがあった。でも、それはメンバー間の心配りで乗り越えた。やってみないとわからないことだったので、それ以降はないようにメンバー間での交流を行い(講座という形で)、その上で実作業に入ることで回避。人間関係を作り人間関係がある上で、本ができるようにする。

#### Q読者からの反響は?

ベビーマッサージの講師をしているので、乳幼児のママたちに会う機会が多くある。その時に、 「活動しているママが品川にいることを知っただけでもがんばれる」「実際にお出かけマップを 見て歩きました」という声をきいた。「病院や救急の特集については、区報だと流し読みで捨て ていたが、冊子だと日常的に見られてすごくいい」等、そういう読者の声が励みになる。

#### Q1年に1回発行だと情報が変わってきませんか?

ホームページ=子育てポータルサイト「てとてとねっと」と姉妹みたいな関係なので、新しい情報はそちらでアップするよう努力して、フォローしている。

情報は、「ママチャリ特派員」という人たちが、日々の情報集めを担っている。その情報を実際

に作業としてアップするのは数人。パソコンが得意なので「てとてとねっと」中心にやっていたり、紙媒体の方が得意でやっている人がいたり、両方やっている人もいたり。

#### Q家庭の仕事が手薄になりませんか?

各家庭によって、パートナーからかなり言われながらやっているママもいれば、大賛成されているママもいたり。みな探りながらやっている。作業は、自分たちが書いたりしているけれど、その裏でパパやおばあちゃんが子どもをみてくれたりなので、活動に理解をしてくれる家族も一緒になって作っていると捉えている。バーベキュー等のイベント時はパパも来るし、巻き込むように努力しながらやっている。家事も疎かにならないよう努力している。

#### Q子どもの成長と共に自分の興味も変わると思うが・・・?

(学童の子どものママより)自分の通ってきた道を、0からとか1からではなく、「こういう楽しいことがあるよ」というところ=2ぐらいから始められるようにという気持ちがある。それを気づかせてくれる方が周りにいた。お返しではないが、自分にもそういう気持ちが芽生えている。

子どもが小学生になると 0~2 才の話題に興味や関心も薄れ自然に卒業するのだが、スキル発揮で残ったり、人間関係としてつながったり。自分もサポーター参加になっているが、それをみなにも推奨している。共通するのは、品川で子育てしている先輩・後輩・当事者ということ。

部数が増えるにつれ、SKIPママは、「すごいね」と言われてしまう。でも「すごくない!」

家事をやらない言い訳のときもある。自分にとっては吐き出す場であるが、それが編集会議のヒントになったりする。 今一番大変な人こそ、「来ちゃえば」という。「あーもうダメだ」「家にいたら気が狂う」という人こそ来てほしい。 SKIP自体が子育て支援になっていると思う。

今あるものを、自分たちが消化して形にしていくという意味 だと思う。どんどんどんどん他地区の方にもパクってほし い!

私が思うには、SKIPに参加したことで、いろいろな人とつながっていった。そこからまた、その後の自分も見つけてもらえたらいいかなと思っています。



## 品川SKIP編集委員会 活動実績

- —2004年度—
- < 2004 年 9 月>
- ・NPO法人ふれあいの家―おばちゃんち―主催「品川区社会教育学級『パパ&ママ視点の子育てガイドブックを一緒につくりませんか』にて、結成。
- < 2005 年 1 月>
- ・「おやこであそぶ、しながわ子育てガイド 2005「SKIP」vol.0」発行 (A 5 版 40 ページ、1,500 部発行、定価 200 円)
- —2005年度-
- < 2005 年4月>
- ·品川SKIP編集委員会 発足
- < 2006 年 1 月>
- ・「おやこであそぶ、しながわ子育てガイド 2006 「SKIP」vol.1」発行 (A 5 版 36 ページ、1,000 部発行、定価 200 円)
- -- 2006年度---
- < 2007 年3月>
- 「コソダテ系 自主グループMap in 品川」発行(2008 年 3 月現在で計 2,800 部発行。無料配布)
- ・品川子育てメッセ 出展
- —2007年度—
- < 2007 年9月>
- 若葉マークの講習会「まちで探そう子育てのタネ (ネタ)」開催
- < 2007 年 12 月>
- ・次世代育成支援協働フォーラム in とうきょう 第二分科会「東京子育てマップをつくろう!~東京の子育て支援の全体像を把握する~」に登壇 < 2008 年 3 月>
- ・「おやこであそぶ、しながわ子育てガイド 2007「SKIP」vol.2」発行 (A 5 版 40 ページ、2008 年 9 月現在 1,600 部発行、定価 200 円)
- ・第 14回 マイタウンマップコンクール 厚生労働大臣賞 受賞
- ・書店での取扱開始(文星堂ゲートシティ大崎店・シンクパーク店)
- ・大商業まつり 出展
- -2008年度—
- < 2008 年4月>
- ・"アトリエ・チルドリン「春のママまつり」"出展
- ・はっぴいトライアングル 参加
- < 2008年6月>
- ・おおた子育て応援メッセ 出展
- ・有隣堂アトレ大井町店 取扱開始
- < 2008 年 7 月>
- ・品川ケーブルテレビ「商店街大好き!SKIP親子と歩く戸越銀座商店街」出演
- < 2008 年 8 月>
- ・戸越銀座まつり 出展
- <2008年9月>
- ・明治学院大学社会学部付属研究所 第3回活動スキルアップ講座:9月30日(火)10:30—12:30 「子育て情報を発信しよう~子育て情報誌編集メンバーから学ぶワザ~」スピーカーとして参加予定
- <2008年11月>
- イベント出展予定
- …他、各児童センターからの要請で『親育ち講座』にて活動に関して述べたり、また、記事をきっかけに『おんぶひも講座』など、広がりを見せている。

編集委員はそれぞれ、子育てアドバイザー、保育士、社会福祉士、ふれあいあそびアドバイザー、ベビーマッサージ講師を取得または取得を目指し、各自及び子育て支援活動へとスキルアップを図っている。

2008年度活動スキルアップ講座 第4回

## ネットワークって、どんなつながり? ~子育て相互支援と地域創りのネットワーク~

2009年2月27日(金) 10:30~12:30

講師:九州大学特任准教授/日本ファシリテーション協会会長/日本ボランティア コーディネーター協会運営委員長

加留部貴行

## 「ネットワーク」?!「ワークネット」?!

「ネットワークつくろう~」に関して、以前から言っているが「ネットワーク」とは怪しい言葉である。気をつけなければいけないのは、「ネット」と「ワーク」という言葉を分けて考えた方がよい。

「ネット」とは、集まった人たちがいて名簿があるだけでできあがる。連絡会とか連絡協議会等と、必死に作り時間をやりくりして出会ってみるが、では何をするのか?となる。「ワーク」がない。形から入ると「ネット」「ワーク」になる。

私は逆の考えで、まず、「ワーク」をみつけましょう!です。

「われわれは何をするのだろう?」「何をしなければいけないのだろう?」「何をめざしているのだろう?」それを実現するために、その手段として、「ネット」を張りましょうと考えている。なので、「ワークネット」という言葉はないが、この考えを推奨したい。



#### ●加留部貴行さんプロフィール

福岡県出身。学生時代から大分県一村一品運動などのムラおこし・まちづくり活動に携わり、1990年に西部ガス(株)入社後も活動を継続。主に青年活動、国際交流、文化振興の分野で、広報、スタッフ人事、団体組織運営に関わる企画全般を担当する中からNPO・ボランティア支援推進専門員として2年半派遣され公務員を経験し、西部ガス復帰後は事業推進部で指定管理者制度を担当。2007年1月に九州大学へ出向し、現在は統合新領域学府特任准教授として、ファシリテーション等の導入を通じた大学の教育プログラム開発を担当しています。企業、大学、行政、NPOの4つのセクターを経験している「ひとり産学官民連携」「ひとりコラボレーション」を活かした共働ファシリテーションを博多弁で実践。趣味は、演劇鑑賞、野球観戦、温泉旅行。福岡ソフトバンクホークスファン。

## 4つの国 (グループ) に分かれて『貿易ゲーム』をやりました!

#### ● 貿易ゲームとは???

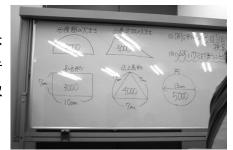
国際理解のための開発教育分野で使用されているエクササイズです。

偏った資源しか持たない国同士が取引することで、互いの利益を最大化するゲームで、盛り上がること請け合いです。ビジネスゲームとしても大変優れており、さまざまな気づきをチームにもたらしてくれます。

詳しいやり方を知りたい方は、開発元の開発教育協会(http://www.dear.or.jp/)にコンタクトしてください。

#### 1) ゲームの準備をする

4~5人でチームをつくり、紙、文具、紙幣など資源を不等に配ります。指定された形の製品をつくれば、国際銀行がある値段で買い取ってくれることを示し、できるだけ収益を増やすことを目指します。



↑指定の製品

#### 2)ゲーム開始

ゲームが始まると、チームによっては、自分たちの資源だけでは収益が増やせないことに気づき、取引や分業など、さまざまな戦略や駆け引きが始まります。製品の価格が変動したり、規格が変更になることもあり、環境変化にも機敏に対応しなければなりません。

#### 3)ゲーム終了

45~60分程度でゲーム終了を宣言し、残った資源を金額で換算して、その多寡や増分を競います。ポイントはここからで、振り返りの時間をたっぷり取り、達成感、不公平感、戦略やチーム作業の改善点などを話し合います。

出典: 堀公俊+加藤彰+加留部貴行著2007

「チーム・ビルディング 人と人を『つなぐ』方法」日本経済新聞出版社 P103~105

貿易ゲームは、とてもオモシロイワークです! このゲームは、子どもたちに国際協力・国際理解を進めるための教材としてスタートしたゲームです。

「資源のアンバランスさ」と「やりとりをする」というところが、まさにきょうのテーマ「ネットワークづくり」とか、組織をどう運営するとか、共働というけれど共働に必要なものは何だろうとかを考えるときの要素、「役割分担」「目的や目標の確認」「資源の強み弱みの確認」などのいろいろな要素がない交ぜになっています。

ゲームは、その人のキャラクターが表れます。たかがゲーム!されどゲーム?ですよ~。





↑各国(各グループ)製品づくりに励んでいます ↑換金のため世界銀行に並んでいます (左上下・右上)



(右下)

ゲームを 終えて・ ゲームの後、各グループにて15分間ほどの反省会をもちました。 特にまとめたりはしません。各自の感想や意見をメモしました。 その上で、各国(グループ)の王様(リーダー役)がコメントを述べました。

## 王様のコメント

各国(グループ)のリーダー



商売的にはよくながった。ゆったり構えて、袋を開けた段階でないのはハサミだけだった。他のものはそろっ ていたので、最後までゆったりのペースが崩れなかった。一生懸命数を作って何とかしようとか、物々交換し ようとか高く売ろうとか考えなかった。普段の生活の地が出たかなと思う。最初から情報を得ようという努力 が足りなかった。

周りの調査をもっとするべきだった。はさみが2本入っていることが恵まれていることと気づかずに安く売っ てしまった。お金になる紙の資源がなかったが、わかっていなかった。外交をもっと積極的に行うべきだった。 ただ立地条件がよく、値が下がったり上がったりする前に換金できるなど銀行へのアクセスが容易だった。人 数が少なかったのでバランスがとれていたと思う。

富を築く目的ばかりに追われ、自分たちに紙が足りないとか、紙が足りないということがどういうことを示す のか、周りの状況を見なかったこともあるし、自分たちがどういう状況なのかがわかっていなかった。20分 間は、日常生活ではあっという間なので、これほど長いものと思わず、気持ちばかりあせってしまった。周り の状況も大切だったし、自分たちの状況を見ることも最初にやるべきだった。

普段から一緒に活動しているグループで、ある程度の役割分担が最初からできていた。チームワークがあった。 適材適所という部分がうまくいっていた。最初の混乱の中でハサミをただ同然で手に入れることができた。い い意味で先見性があったと思う。一番必要なものを手に入れられた。あとは貨幣価値を常にチェックして、社 会のニーズに合わせて柔軟に変わっていける気持ちを持っていたのだろうと思う。自画自賛した。ひとつの目 的に向かって協力できて、いい具合に進んだことで、この20分間で自信がもてた。イベントの実施等でいろ いろなことに直面しているのだが、何とかなりそうだねと話せて、すごくいいワークだった。

#### ファシリテーター加留部氏より:



#### ひとりではできない

ひとりで物事が解決できるなら、わざわざ集まる必要はない。なぜ、わざわざ人は集まったり集めたりするのか?理由はたったひとつで、個人には限界があるということだ。物理的な限界(つまり手数足数がほしい)。質的な限界(自分の知っていることや体験したこと以外は知らない。他人と掛け合わせることで幅や深みが増す)。最近強く言われる、精神的な限界(ひとりではさびしい)。それをどうやって支えあっていけるかである。

#### 地域の中の孤軍奮闘・孤立無援・限界集落化

今、地域の中では孤軍奮闘・孤立無援で、限界集落化している人がいっぱいいると思う。 限界集落とは、中山間地・農山村・離島に代表される、いわゆる田舎だけを象徴する意味の 言葉だけではない。実は、港区のど真ん中でも、福岡の天神のど真ん中であろうと、限界 集落は存在する。限界集落化されているところの共通項は、人と人との関係が切れている 状態が存在する、ということ。そのようなところでは、いかなる地域であれ、組織であれ、 家庭であれ、限界集落が存在するのである。

地域の方と、港区と明治学院大学社会学部付属研究所とが取り組んでいる「地域こぞって子育て懇談会」は、これだけの人口のいる地域にかかわらず、孤軍奮闘して限界集落化して最後はひとりでひっそりと困っている、、、という状態がないよう、特に子育ての世界でどのように支援の輪をつくっていくかに取り組んでいる。多くの目、多くの気づきも必要だろう。今回のような集まりなども地域にはセーフティーネットとして必要になるだろう。何より仲間がいることが、この街の一番の力である。これは、港区だけでなく日本全国津々浦々どこも苦労している現状である。

#### ソーシャルキャピタル=社会関係資本

地域で支え合う仕組みについて、社会学の先生たちは、「ソーシャルキャピタル=社会関係 資本」という言い方をしている。これを構成する要素が3つある。

ひとつは、「信頼」。信頼関係が必要。

2つめは、「互酬性の規範」。平たく言えば、お互い様と思う気持ち。

3つめは、「ネットワーク」。 私はこれを、「多様な関係性」と訳している。

かつて、日本には多世代、ご近所づき合いの多様な関係性があって、味噌貸して醤油貸して、ありがとう、お互いさまなどの声がけがあって、カギをかけなくても出られるくらいの信頼関係がある時代があった。今はどうか?というと、核家族が悪いとは言わないが、どうかすると閉じられた世界になる。隣に誰が住んでいるかがわからなくなり、流行っているのはセキュリティ業者。だから、安全・安心のまちづくりをしなければならないという真逆の世界。私たちが、遡ってできそうなところは、いきなり信頼関係というよりも、多様な関係性をどうやって結んでいくかではないかと思う。今つくっている、人のつながりという名の社会関係資本、その突端やとっかかりを大事にしてほしいと思う。どこも大変な思いをしているが、ここでの取り組みがいい取り組みになるように願っている。

## 仕事と子育ての両立

## 貿易ゲームの後、話したいこと を話したい人と話そう~ の時間になりました。

#### もっと仲間を集めたい!

#### 情報誌つくっています!





#### ・・・ふりかえり・・・

みなさんは、子育ての輪を広げる活動をしてきました。 きょうの貿易ゲームでは、いろいろな気づきや反省点があったことでしょう。他の話 題で話して気づいたこともあるかもしれません。 感じたことや気づいたことを、「漢字一文字」と「その心は?」を書いてみてください。



2008年度

# 子育て相互支援活動のための<br/>活動スキルアップ講座まとめ

2009年3月31日発行

協力 港区立子ども家庭支援センター

編集・発行 明治学院大学社会学部付属研究所 相談・研究部門

〒108-8636 東京都港区白金台 1-2-37

TEL03-5421-5204/5205 FAX03-5421-5205

Eメール issw@soc.meijigakuin.ac.jp